

障害を隠さず知ってもらおう、自分のできることは精一杯やるのが大切



休日に家族と愛川町でいちご狩り

新徳 友美 さん

市民税課 主査

■職歴■

H14. 4. 1 市民税課
H20. 4. 1 地域医療課
H23.10. 1 会計課
R 5.10. 1 市民税課

お休みの日は何をしていますか？

平日に気が張っているためか、週末は疲れがドツと出て寝られるだけ寝ていたい気分です。そのため、家でゆっくり好きなドラマを見たりして、体力を回復させることも大事だなと思っています。医療もの、刑事もののドラマが好みです。

時には、家族と車で遠出することも。家族は、私が車の免許を取得することをとても心配していましたが、今となっては便利な運転手をさせられています。

運転免許取得について教えてください

就職後、バスで通勤していましたが、バスの路線がなくなったこと、自由に出かけたい、と思ったことで運転免許を取得しました。

運転補助装置が付いた自分の車を持ち込んで教習を受けるので、まずは受け入れてくれる教習所探しからです。同期の友人と一緒に探してくれて、綱島(横浜市港北区)の教習所まで通いました。

私は、その教習所で自分の車を持ち込んだ第1号になりました！免許取得以来、車で通勤をしています。

仕事の向き合い方

どのような仕事をしていますか

令和5年10月に市民税課に配属されました。書類の審査をし、課税決定、入力、確認をする業務で、自席のできる仕事をしています。

病気の影響から、疲れやすいため、残業や休日出勤は無理のない程度にしています。昔は、甘えられず

新徳さんご自身について

どのような障害があるのか教えてください

筋ジストロフィーという病気です。入庁当時は自立歩行でしたが、現在は車いすを使用しています。職場では、車いすでの移動、車いすや自席の椅子への乗り降りなどにサポートを受けています。

筋力が弱いので、常に腰痛に悩まされています。

※筋ジストロフィーとは※

遺伝子変異によって筋肉に必要なタンパク質がうまく作られなくなり、筋肉が徐々に弱くなっていく病気。骨格筋の筋力低下によって運動機能障害が起こるのが主な症状。

どんな風に病気と向き合ってきたのですか？

小学校3年生の時に診断されました。補装具をつけるようになると、嫌で学校に行きたくないと言ったことも。でも、両親は体育でも何でもやってみなよ、と言って障害を理由に甘やかすことはありませんでした。その頃は厳しいな、と思っていたけれど、今思うと、私が困らないように、社会に出られるように、という思いで育ててくれたのかな。

自分でも、障害を理由にできないとは言いたくない、という気持ちが強くなったかもしれません。

無理をして転倒し、怪我をしたことも。その時、先輩職員が「無理しないの、怪我をして長く休む方が周りも大変だよ」と言ってくれて、それから自分までこまで、と決められるようになりました。

障害があるからできない、とは言いたくないので、これはできないけど、ここは頑張っています、と言えるよう、できることは全力でやらないといけないな、と思っています。

合理的配慮がされていますか？

移動に障害があるため、車通勤をしています。出勤時、自家用車の駐車場と職場の行き来は同僚が交代で車いすを押してくれます。日中も、車いすの乗り降りは、同僚が介助してくれます。

事務分担では、自席でできる仕事を担当。また、自立歩行だった会計課の時は、会計課前のスロープに手すりを付けてもらいました。

人事異動で部署が変わった時も、前の課と異動先の課が連携していて、事前に話をしておいたよ、と言ってもらい、困ったことはあまりありませんでした。周囲のサポートのおかげで、スムーズに私の状況が伝わっています。

上司にお話を伺いました

班内の様子など教えてください。

若手の職員を中心に、移動時などのサポートをしています。課内でサポートの仕組みが出来上がっていて、ローテーションを組んで柔軟にやってもらっています。新徳さんについては、前の班長からも、新徳さんの同期の職員からも、しっかり業務をされている方と聞いていました。若手職員の相談に乗ってくれたり、仕事も確実なので、助かっています。

以前も車椅子を使用する職員がいたので、新徳さんをサポートするのは自然のことになっているのではないかと感じています。市民税課は市民対応が多い職場ですが、周囲の職員が障害を持つ市民に対応する際にも、良い影響があると思っています。

相模原市を選んだのは？

相模原市の採用試験を受けようと思ったきっかけを教えてください。

病気のこともあるので、遠くまで通勤するのは無理だな、と思っていた中、たまたま住んでいる相模原市に障害者採用があることを知りました。

今後のことを考えると、障害があることで職を失うのも嫌だったので、地方公共団体の障害者採用であれば、しっかりした対応をしてもらえるのではないかと考えて受験を決めました。

新徳さんからメッセージ

障害を持ちながら働いている人、また今後相模原市の障害者採用の受験を考えている人へ向けて、メッセージがありましたらお願いします。

不安を感じたり、受験を迷っている人へ

働く場所として相模原市を選んで、私は良かったと思っています。想像していた、定時で帰れる公務員像とは違いますが(笑)。

自身に合わせて色々なサポートをしてもらえましたし、産業医を通して不便なことを伝え、対応してもらえたこともありました。

サポートを受けることも大切

周囲に迷惑をかけるかも、という不安や負い目もあるけれど、意地や気力だけで乗り切ろうとしない。おんぶに抱っこは違うけれど、遠慮しすぎず、できないことや必要なことは素直に言うようにしています。

人との出会いがとても大きい

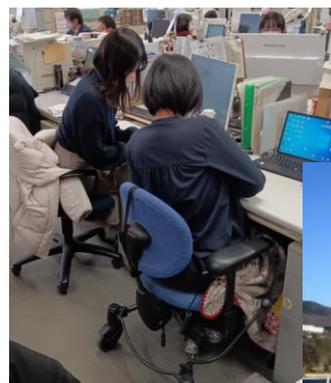
就職後、先輩が外に連れ出してくれました。みんなで遊びに行こうよ、と言って遊園地などに行きました。同年代の職員が多い課だったので、今でも良い関係が続いています。

私は、障害のことは隠さずに出すのが一番と思っています。誰かに聞かれたら、私はこういうことができてなくて、周囲にこうしてもらっているんだよ、と説明します。

「障害」と言っても一人一人違うので、それを分かってもらい自分を知ってもらうことは大切です。知ってもらえることで、サポートもしてもらえるのではないのでしょうか。

自分のことを知ってもらっていないのに、周囲のサポートがない、と言うのは甘えなのかなと思います。

私も、最初からそれができたわけではないけれど、周囲の先輩や同期の友人と良い関係を築けたおかげで、素直に自分を出すことができるようになりました。



家族で行った静岡の海